

# 資源管理基礎調査（種苗放流）

（要 約）

菊谷 尚久

## 目 的

青森県資源管理指針に掲載されている魚種別管理資源の内、ウスメバル、マダラを対象に調査を実施する。ウスメバルでは、陸奥湾来遊稚魚の動向と稚魚の移動分散について、マダラでは移動分散についての調査を行う。

## 材料と方法

### 1 ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 23 年 5 月から 7 月にかけて、青森市奥内地区及び後潟地区のホタテ養殖施設において、浮玉に海藻（アカモク）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップを設置し、トラップ浮体に蟻集する稚魚を船上よりタモ網にて採集した。

### 2 ウスメバル（稚魚の移動分散）

当研究所で中間育成した 1 歳魚のウスメバルを用い、平成 23 年 10 月に東通村尻労、平成 23 年 11 月に深浦町深浦から標識放流を実施した。

### 3 マダラ（移動分散）

脇野沢村漁協が種苗生産したマダラ稚魚を譲り受けて標識放流用種苗とし、平成 23 年 6 月にむつ市脇野沢から標識放流を実施した。

## 結果と考察

### 1 ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 23 年度に採集したウスメバル稚魚は 500 尾であり、前年度の 98,700 尾を大きく下回った。また、採集したウスメバル稚魚の平均全長は、5 月では 29.8mm、6 月では 22.7mm であった。

### 2 ウスメバル（稚魚の移動分散）

平成 22 年度に採集したウスメバル稚魚を中間育成した 1 歳魚を用い、平成 23 年 10 月 20 日に 109mm サイズの稚魚 900 尾（赤色ダーツタグ、刻印アオスイ 0001～0900）を尻労漁港前沖から標識放流した。また、平成 23 年 11 月 30 日に 117mm サイズの稚魚 850 尾（黄色ダーツタグ、刻印アオスイ 2011）を深浦漁港内に標識放流した。

### 3 マダラ（移動分散）

当初予定していた腹鰭抜去は、供試稚魚のサイズが小さく鰭抜去は不可能と判断されたため、標識方法を腹鰭切除に変更し、平成 23 年 6 月 24 日に 44mm サイズの稚魚 6,900 尾を脇野沢の中間育成施設から標識放流した。